

第1学年英語科学習指導案

日時 平成16年10月6日(水)5校時
学級 1年A組(男子16名 女子16名 合計32名)
場所 1年A組教室
指導者 教諭 高橋 健(T1) ALT Sarah Larios
講師 山口 真由美(ATU) 教諭 千原 正子(AT;T2)
フューチャー 澤田 佳南子(TU) フューチャー 高橋 和明(TU)

1 単元名 Unit 7「アメリカの学校から」

2 教材について

本単元では疑問詞を用いた表現を扱う。一つは what time を用いた時間の問答や、how を用いた天候の問答、もう一つは who を用いた表現である。

既に疑問詞 what や which を習っており、語順などの構造やイントネーションについても確認している。よって口頭練習を多く取り入れながら時刻や天候、who を用いた表現の定着を図っていききたい。

また、異国の学校のシステムについても学べる構成になっており、文化の違いに目を向けさせるよい機会とし、関心を持たせたい。

Writing Plus 2 では、自分の学校のホームページをつくるという設定で書く作業を行う。所在地や創立年数、生徒・教員数の表現の仕方の定着をめざしたい。

Speaking Plus 4 では、一日の生活パタンの言い方を習う。モデル文を用いて口頭練習を繰り返し、最終的には自分の生活パターンを話せるようにしたい。

本教材の基礎・基本については、各パートのターゲットセンテンスを理解し、それを用いて表現できることと考える。

3 生徒の実態

教師の投げかけに対しては一部の人が反応するという比較的遠慮がちな集団であるが、ペアでの活動では意欲的に取り組む姿も見られる。音読などの表現活動は、やや声が小さいので、この単元を通して自信を持って表現できるように育てたい。授業で扱う内容を家で予習して、授業用ノートに英文や英単語の視写、和訳などをしてくる決まりになっているが、ほとんどの生徒はやってきている。その一方で、以上のような予習・練習をやらない若干名の生徒や、一斉授業で流れについていくことのできない生徒への支援を今後はより工夫して行う必要がある。そのために、スピードが速く学習内容も豊富な「発展」コースと、ゆっくりじっくり基礎・基本の定着を図る「基本」コースに分けて対応したい。コース分けについては、テスト結果、普段の様子、生徒の希望等を総合的に判断して決定する。

4 単元の目標

- (1) what time や how を用いたの時間や天候の尋ね方や答え方を、語順などの構造やイントネーションに留意させながら身につけさせるように指導する。
- (2) who を用いたの未知の人物についての質問、応答ができるように指導する。(1)の目標に同じく語順やイントネーションについても指導する。
- (3) アメリカの学校の教育システムに着目し、文化の違いに関心を持てるように指導する。
- (4) 自分の学校の所在地、創立年数、生徒・教員数など情報を整理して書くことができるように指導する。
- (5) 自分の生活パターンを話せるように指導する。

5 指導計画（6時間計画）

| 時 | 学 習 内 容 | 評 価 規 準 | | | |
|---------|-----------------------------|-----------------------------------|---------------------------------------|----------------------------|-------------------------------|
| | | コミュニケーションへの関・意・態 | 表現の能力 | 理解の能力 | 言語や文化についての知識・理解 |
| 1 | 世界の時刻 | (話)時刻や天候について意欲的に説明しようとする。 | (読)教科書の対話文を強勢・イントネーションに気を付けて読むことができる。 | (聞)時刻・天候について聞き取ることができる。 | (話・書)疑問文の語順を理解することができる。 |
| 2 | ホームページを見て | (話)「誰」であるのかについて意欲的に尋ねたり、応答しようとする。 | (読)教科書の対話文を強勢・イントネーションに気を付けて読むことができる。 | | (話・書)疑問文の語順を理解することができる。 |
| 3 | アメリカのある中学校 | | (読)教科書の対話文を強勢・イントネーションに気を付けて読むことができる。 | (読)アメリカの中学校について読みとることができる。 | (読)アメリカの中学校について知り、理解することができる。 |
| 4 | アメリカのある中学校 | | (読)教科書の対話文を強勢・イントネーションに気を付けて読むことができる。 | (読)アメリカの中学校について読みとることができる。 | (読)アメリカの中学校について知り、理解することができる。 |
| 5 | Writing Plus 2 学校のホームページ | (書)情報を整理して書こうとする。 | (書)情報を整理して書くことができる。 | | |
| 6 本時 | Speaking Plus 4 一日の生活 | (話)自分の一日の生活パターンについて進んで話そうとする。 | (話)自分の一日の生活パターンについて話すことができる。 | | |

6 本時の指導

(1) 本時について

本時では一日の生活パタンの言い方を学習する。それぞれのコースで、別様な練習方法を用いながら、話せるように定着を図っていきたい。

(2) 本時の目標（評価規準と具体的評価規準）

| | 学習活動における 評価規準 | 具 体 の 評 価 規 準 | | Cへの支援の方法 | 評価方法 |
|-------------|----------------------------|--|--|-----------------------------|----------------------|
| | | A「十分に満足できる」 | B「おおむね満足できる」 | | |
| 関 意 態 | 一日の生活パターンについて進んで話そうとする。(話) | 口頭練習では大きな声で、正しい発音に留意しながら相手に伝わるよう話している。 | 口頭練習で、しっかり声を出して説明している。 | 自分の一日の生活パターンを想起させ、学習に向かわせる。 | 机間巡視(観察) 発表 挙手 |
| 表 現 | 一日の生活パターンについて話すことができる。(話) | モデルの言い方を踏まえ、自分の生活パターンについて発展した内容で話したり、問答したりできる。 | モデルの言い方を踏まえ、自分の生活パターンについて絵などのヒントカードを用いて話すことができる。 | 音読段階の活動がしっかりできるように支援する。 | 机間巡視(観察) 発表 挙手 |
| 理 解 | | | | | |
| 知 ・ 理 | | | | | |

(3) 研究テーマとの関わり

(ア) 基礎・基本の内容の厳選

本時ではモデルの文の言い方を理解し、それをを用いて表現できることと考える。

(イ) 教材・展開の工夫

教材については、生徒の興味をひくような絵などを用いて導入する他、相互評価シートを取り入れ、自分の発表のみならず他の生徒の発表も真剣に聞くことができるように工夫した。また、導入段階では両コース一緒に行い、本時の到達目標などを全員で確認できるようにした。展開段階では、それぞれのコースで、生徒の力に見合った指導ができるようにしている。

(ウ) 意欲を高める工夫

2つのコースに分け、より発展的なことを学習、基本を定着させる学習のどちらかを選択できるように配慮し、自分がもう少しがんばれば到達できるところに挑戦させる。

(エ) 指導形態の工夫

発展コースでは、ALTが授業を主導し、英語の指示などを多用し、生徒の理解を他2名(SAT及びTU)で支援していくようにしている。一方、基本コースでは、クラスルームイングリッシュを使わないわけではないが、個々の単語の発音などをきめ細やかに指導していく。

(オ) 定着を図るための工夫

本時のみで扱わず、1ヶ月ほど前から少しずつ生活パタンの言い方を導入し、繰り返しの指導により定着をめざしている。またそれぞれの段階で形成的評価を行い、必要であれば授業中に補充指導していく。

(4) 本時の展開

| 段階 | 学習内容 | 学習活動 | 支援の役割分担 | 指導上の留意点・資料等 |
|----------|---|--|--|---|
| | | | ALT SAT TU ;T AT TU | |
| 導入 5分 | 1 あいさつ及びウォーミングアップ 2 前時までの復習 3 課題の設定 | あいさつの後、簡単な英語の質問に答える。 確認テストで前時までの理解度を確認する。 本時の課題を確認する。 自分の一日の生活パターンを発表しよう! | 簡単な英語の質問をする。(ALT) 文法的な事項の質問をする。(T) 音声的な事項の質問をする。(ALT) 一日の生活パターンを紹介する。(ALT / T) これが、到達目標になることを伝える。(T) | あいさつの後、英語で質問をし、英語の学習を始める雰囲気をつくる。 クイズ形式で簡単に答えられるようにする。よかったところ、改善点に言及する。 教師による一日の生活パターンを、興味・関心を引き出すように絵などを用いながら紹介する。 課題を全員で復唱する。 |

【発展】

| | | | | |
|------------|---------------------------|--|--|--------------------------------|
| 展開 3.5分 | 4 課題の追究 (1) 音読 | (1) モデルを音読する | ALT: 音読指導する。 SAT: ALTの補助。 TU: 机間巡視、生徒支援。 | 机間巡視【関心・意欲・態度話】 |
| | (2) 話す・原稿作成 | (2) モデルをもとに自分の生活パターンを話すための原稿をつくる | ALT: 英語で説明。 SAT/TU: 説明補助。 | 生徒の表情をよく見て説明し、必要に応じて支援する。 |
| | (3) 暗記 | (3) 原稿を暗記し、発表できるようにする | ALT/SAT/TU: 机間巡視、支援。 | |
| | (4) 発表 | (4) ペアごとに発表し合う。 代表者発表 | ALT/SAT/TU: 机間巡視、支援。 | |
| | (5) インタビュー | (5) ペアごとに相手の生活パターンについて尋ね合う。 | ALT/SAT/TU: 机間巡視、支援。 | 発表: 評価【表現話】 発表ペア数の見当をつけておく。 |
| | (6) 書く | (6) パートナーの一日の生活について書いて発表する。 代表者発表(1名) | ALT: 英語による指示。 SAT: 説明補助。 | |
| 終結 5分 | 5 まとめ 6 次の予告 7 あいさつ | 相互評価を行う。 教師による評価を話す。 次の予習(ノートづくり)の指示を聞き、宿題(ワーク)の確認を行う。 | T/ALT/SAT/AT/TU: 評価。 | 相互評価シート 変容があった部分を評価してあげる。 |

(注) T: 高橋 ALT: Sarah AT: 千原 SAT: 山口 TU: 澤田(発展) 高橋(基本)